

てん りょう しま つ や くち ばん しょ あと

①⑥ 天領島津屋口番所跡



この路は古くから石見と出雲を結ぶ重要な路で、江戸時代島津屋には天領の石見銀山と、出雲松平藩領との境の東口門戸として口番所が置かれました。現在の田中屋（島林宅）の敷地内に四畳半四部屋の建物があり、石見銀山から代官所の役人が家族と仲間（人夫）を連れて詰めていました。路に木戸を設け、朝6時から夕6時までを通行時間とし持物や行先を調べました。通行人は手形を示し、通行税などを払って通過しました。番所に置かれていた^{さす}差股・^{また}袖搦・^{そでがらみ}突棒などの武器は、現在大森の石見銀山資料館に保管展示されています。

向って左にある石碑は銀山史の研究家山根俊久氏の揮毫によるもので、昭和50年12月公民館によって建てられたものです。

石碑の位置

